



発行者  
國學院大學  
栃木高等学校  
同窓会  
(〒328-8588)  
栃木市平井町608番地  
電話 0282-22-5511

第48号

進化を続ける母校へ

同窓会会長 長谷川 孝



同窓生の皆様にはお元気にお過ごしのこととお慶び申し上げます。また、常日頃から母校と同窓会にご高配を賜りありがとうございます。

母校のラグビー部が令和七年七月二十三日～二十五日長野県菅平高原で開催された第十二回全国高等学校七人制ラグビーフットボール大会において優勝し悲願の高校日本一の栄誉をつかみました。吉岡肇先生をはじめ指導者の皆さまに敬意と感謝を申し上げます。さて、令和七年は大阪・関西万博が一六五の国と地域・国際機

関の参加を得て開催されました。

テーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」として異国の文化や人々と出会い多様性でありながら一つになろうというものでした。

シンボルの木造の「大屋根リング」は日本を象徴していました。また、ノーベル賞においては、生理学・医学賞で坂口志文氏、化学賞で北川進氏が栄誉ある賞を受賞し、日本の科学研究力の高さを世界に示す結果となりました。

一昨年、私が関西に旅行したおり、タクシーの運転手さんから「ちらかからおみえになりましたか」と聞かれたので、「栃木県栃木市です。」と答えたらピンときませんでした。しかし「國學院栃木高校のあるところですよ。」と返事をすると直ぐにわかってくれました。運転手さんは「野球やラグビーの強い高校ですよ。」と答えてくれました。私はスポーツを通しての知名度はすごいものがあると感

じました。

昨春秋には、久しぶりに体育祭を観ました。午後の部の部活動行進は文化部・体育部総勢三十六団体が参加し、放送部による各部活動の紹介と共に個性豊かな行進でした。行進終了後には応援部によるチアリーディングがグラウンド中央で披露されました。まさに現在の学校のようすを表すものでした。特に野球部一〇〇名、ラグビー部一〇八名、サッカー部九十六名

の学校を代表するものでした。特に野球部一〇〇名、ラグビー部一〇八名、サッカー部九十六名

の学校を代表するものでした。特に野球部一〇〇名、ラグビー部一〇八名、サッカー部九十六名



令和七年 文化祭公演 吹奏楽部

という部員の多さに驚きました。國栃でスポーツと勉学を両立したい生徒が全国から集まっているということの証です。今年度から女子硬式野球部が創部され新入生二十一名が入学しました。さらに来年度は女子サッカー部の創部を予定しています。体の力、頭の力、心の力を養う三年間をここで生活したい生徒を私たち同窓会は応援します。

六十五周年を迎えて

学校長 實島 範朗



國學院大學栃木高等学校は、今年、創立六十五周年という大きな節目を迎えました。この歴史を築くことができたのは、ひとえに全国各地で活躍されている同窓生の皆様のご支援とご協力のおかげです。皆様が本校で培われた知識や精神を糧に、それぞれの分野で輝いてこられたのは、在校生や教職



男子ハンドボール部  
令和7年度 第35回 栃木県高校  
ハンドボール一年生研修大会(優勝)

員にとって大きな励みであり、誇りでもあります。先輩方の存在が、今を生きる後輩たちにとっての道しるべとなり、力強く背中を押してくれています。これまでにご厚意、ご寄附、励ましの言葉をいただき、学校の発展と教育の充実に大きく寄与していただきました。六十五周年を迎えた今、私たちはこの感謝の思いを胸に、次なる時代へと歩みを進めてまいります。今後とも、國學院大學栃木高等学校の更なる飛躍のために、変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。



◆クラス会は一〜三年生のすべてのクラスが対象です。いずれも学年につき、一年度に一回の開催なので、三回開催することも可能です。詳しくはページをご覧ください。



二十二期生 普三年九組  
令和七年四月二十六日(土)



二十九期生 普三年三組  
令和七年九月十四日(日)



二十四期生 普二年六組  
令和七年九月二十七日(土)



十七期生 普三年二組  
令和七年四月五日(土)



三十一期生 普三年五組  
令和七年五月二十四日(土)



二十一期生 普二年四組  
令和七年九月二十七日(土)



十六期生 普三年五組  
令和七年十月四日(土)

その他

四十四期生 国三年三組  
令和七年五月五日(月)開催

十期生 一年四組  
令和七年六月八日(日)開催

三十二期生 普三年八組  
令和七年七月二十日開催

六十三期生 普三年一組  
令和七年八月二十四日開催

十一期生 普三年八組  
令和七年十月十九日(日)  
二十日(月)開催

クラス会開催一覧 令和七年四月〜十二月

33期生 卒業30周年集いの会



卒業生としての誇りを胸に伝統のバトンをつなぐ

三十三期生 実行委員長 佐藤昌教

三十三期三十周年集いの会の開催にあたり、多くの方々からご支援いただき、心からお礼申し上げます。

二〇二五年十一月二十二日(いい夫婦の日)に開催された「三十三期生卒業三十周年集いの会」では九十四名の同窓生と来賓十名の恩師の先生方に参加していただきました。

主だった活動をしていないにも関わらず、申し込み期間に多くの同窓生からの申し込みがあり、幹事会のメンバー全員で歓喜したことを覚えています。

前年の先輩たちからの引き継ぎでは、参加者の募集には力を入れないと参加人数を確保できないということだったので、改めて同窓生たちの母校愛の強さを感じました。(油断しなさいで、参加者を増やすことはできませんでしたが)

また、後輩の三十四期生からも二名の方が、集いの会に参加してもらうことができ、伝統のバトンも無事引き継ぐことができました。

昨年、私も、三十二期生の先輩から招待をされて集いの会に参加しま

したが、一週間前に「三十三期の参加者がひとりしかないから誰か連れてきて」と連絡があったときのことを考えると本当に奇跡みたいなことが続いたと思っています。

私が、職場を異動したこともあり、活動が低調で焦りと不安が募るだけの日々が過ぎていき、六月の時点では幹事会三名(うち普通科の幹事0人)という厳しい状況でした。(この時点でも「なんとかなるだろう」と思っていました)

ようやく普通科のメンバーと連絡が取れ、協力を快諾してもらい、急ピッチで準備が進んでいき、開催できたことは本当に奇跡だったと思っています。

当初から参加していたメンバーのひとりが「開催できるか不安で眠れなかった」と言っているのを聞いたときは申し訳ないという気持ちでいっぱいになりました。(私はしっかりと寝ていたのだ)

開催日に集まった恩師の先生方と同窓生たちのこぼれるような笑顔を見て、この日々は報われたと思うとともに集いの会の準備に幹事の仲間たちと一緒に携われたことは本当に幸せだったと思います。

参加された恩師の先生から「実行

委員長だって聞いたときは大丈夫かよと思ったよ」と言われましたが、心の中で「ええ自分が一番そう思っていましたから」と先生に突っ込みをいれていました。

こんな私が、国柄の伝統の行事である一生に一度しかできない三十周年集いの会の実行委員長として開催できたのは、同じ国柄を卒業した仲間たちの存在があったからだと思っています。

当日、仕事、家庭等の都合で参加できなかった方々がいたと思います。今回、集いの会に参加された方々が連絡を取り合い、次回の還暦の会までにクラス単位で同窓会等を開催してもらい、参加できなかった方々と再会し、親睦を深めてもらえれば幸いです。

最後に同窓生のみなさん、人生の折り返しも過ぎていますが、健康に気をつけて国柄の卒業生としてますます頑張ってください。(そして還暦の会は、私をゲストとして呼んでください。)

三十四期生のみなさんにあっても、来年、同じような奇跡の体験をしてもらえればと思います。

本当にありがとうございました。

お知らせ

◆卒業30周年集いの会  
28期生・29期生・30期生のみなさん!皆さんはコロナウイルス感染症感染拡大防止のため、集いの会開催を断念せざるを得ませんでした。これから、学年全体の会を開催されるなら是非ご連絡をください。  
【補助金を含め集いの会と同様のお手伝いをいたします。】

◆クラス会・還暦の会  
クラス会には20,000円・還暦の会には250,000円の補助があります。いずれも開催日の前に所定の申請用紙を提出していただきます。まずご連絡をください。

〈國學院大學栃木高等学校同窓会〉同窓会や母校のことお気軽にお問い合わせください。  
電話:0282-22-5511(学校の代表番号です) MAIL:yamanaka@kokugakuintochigi.ac.jp

# 会員だより

このたび、  
霞ヶ浦高等学校 岡村守校長と  
本校サッカー部 武井監督に  
原稿をお寄せいただきました。

## 國栃(ここ)に

### 人生の礎あり

二十二期生 岡村 守



今年還暦を迎えた私は現在、茨城県阿見町にある私立霞ヶ浦高等学校で令和六年度より校長に就任し、毎日、教職員の方々、生徒の皆に支えてもらいながら日々奮闘しております。本校は来年度創立八十周年を迎える歴史ある高校で、全校生徒一二二八名の全日制普通科の学校です。國學院大學を卒業後、霞ヶ浦高校に着任し、今年で三十八年目を迎えます。採用条件の一つに硬式野球部の強化もあり、教師とコーチの二刀流として頑張ってきました。平成元年に監督に就任し、その年の茨城県大会を制しました。そのままの勢いで関東大会も優勝を飾り、第六十二回選抜大会にも選出していただき、春夏を通じて初めて霞ヶ

浦高校を甲子園に導くことができました。その年に入籍(旧姓菅沼育子二十二期卒)し、十年間必死に頑張りましたが、当時の校長から「そろそろ野球部を離れ学校のことをお願いできないか。」と说得され後任に託し、学年主任・教務主任・教頭と歴任して現在に至ります。

母校との出会いは、当時、埼玉県越谷市で育った私は、野球を続けることを決め、甲子園出場に近い学校を目指し、県内を問わず探していたところ、三つ上の兄がすでに貴校の硬式野球部に所属しており、秋季大会を二連覇し、甲子園にはあと一步ということも、もちろん存じておりましたが、希望校ではありませんでした。ある晩兄より「守はうち(國栃)が合っていると思う。一度見に来いよ。」と言われ、軽い気持ちで見学に行きました。見学終了時に私にとつて今でも忘れられない瞬間が訪れます。それは淀縄健一郎先生との最初の出会いです。体は小さいがその眼差しは温かくも厳しく、私に一言、「守、うちに来い!」「甲子園に行こう。」とおっしゃってくれました。「はいっ!お願いします。」と即答した瞬間を今でも覚えております。その後入学することになり甲子園初出場のため、

「先生方を漢(おとこ)にするぞ!」をチームの合言葉に懸命に野球に打ち込みました。

残念ながらその夢は儚く消え先輩たちに託しました。引退後、目標を見失っていた私を見かねたのか、突然、淀縄先生は職員室に呼び出し「守、お前は教師に向いていると思う。教師を目指してみたらどうだ。」と再び暗がり歩きにいた私に道を照らしてくれ、今に至っています。

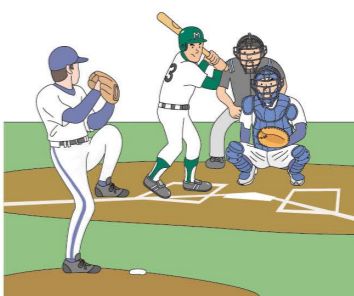
私事ではありますが、本校は昨年の夏、甲子園へ出場を果たし、監督で甲子園出場、校長で甲子園出場と貴重な経験をさせていただけました。ここまで順風満帆のようには見えませんが、決してそのようなことはなく、困難で厳しい時の方が多かったように思います。これからも難題・課題などの坂道が多く待っているでしょう。しかし、この道(教師)に導いてくれた淀縄先生や叱咤激励をいただいた須藤光三先生・故水代勲先生・實島範朗校長先生・神原邦夫先生をはじめ多くの先生方や後輩の皆さんには、茨城から明るい便りをお届けできるよう努めてまいります。

たった三年間ではありますが今の私があるのはここ(國栃)でいろいろなことを学び、ご指導をいただいたことが大きくあります。本当に感謝しております。

私は今、子どもたちには、社会の変化がつかないほど加速する時代に立っています。しっか

りと生き抜く力を身に付けてもらいたい願っています。これから少子化の中、私立高校は時代のうねりを越えて未来を切り拓かなければなりません。まだまだ力不足ではありますが、母校と共に「そこに無くてはならない存在」「人生の礎を築ける学校」として切磋琢磨していければ幸甚の至りです。

最後になりますが、この様な機会を与えていただきました實島校長先生には心より感謝を申し上げます。貴校の益々の発展を祈念し、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。ありがとうございました。



## 母校への恩返し

四十二期生 武井拓也



私は現在、母校である國學院栃木高校サッカー部の監督を務めております。

今、指導している生徒の皆さんと同じように、このグラウンドでボールを蹴っていたのは、もう



第六十五回全国高校野球選手権 栃木県大会二回戦佐野日大戦より 中央・淀縄健一郎先生 向かって右に筆者

# 國栃同窓生教職員リリースコラム

國栃で思うこと國栃に思うことを自由に寄せていただきました。初回は職員から、今年度定年を迎えられる教務庶務、阿部泰江さん(十七期)と新採用の庶務課書記、安澤克敏さん(四十九期)にお話ししました。

十七期生 阿部 泰江



十七期卒業の私は、縁あって母校に勤務することになり、現在に至っております。随分長くお世話になったものだ感慨深いものがあります。

高校時代は、つまらぬ悪戯をしてはよく叱られました。担任の先生には勉強だけでなく礼儀・作法はもとより幅広い雑学まで教えていただき、当時は理解できなかったことも、社会人になってから、自分のためになっっていることを感じ、とても感謝しております。

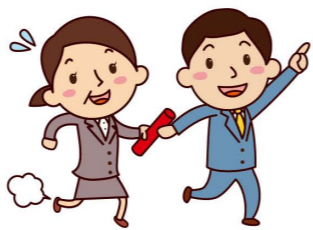
立場が代わり職員として見ると、とても面倒見が良い学校だと思います。そのためか卒業生が大勢、頻りに遊びに来ます。ある時は嬉しい報告に。また、ある時は辛い苦しい心根を聞いてもらいに。卒業生の笑顔あふれる姿が見られるのは、こちらも幸せな気持ち

四十九期生 安澤 克敏



ちになれます。いつ来ても先生に会える。移動のない私学の良さのひとつだと考えます。どんなに時代が変わっても、この様な繋がりが、ずっと続いていく事を心より願っております。

このたびご縁をいただき、國學院大學栃木学園に職員として採用され、高等学校・中学校柔道部の顧問を務めることとなりました。四十九期卒の安澤克敏と申します。卒業生として母校に戻り、在学中に多くの先生方からご指導を賜り、共に切磋琢磨した仲間達の思いが受け継がれている母校で働けることに、深い感謝と大きな喜びを感じております。



柔道を通じて学んだ「精力善用」「自他共栄」の精神は、社会に出てからも私の行動指針であり、人としての生き方を支えてきました。これらの教えは、校訓である「たくましく 直く 明るく さわやかに」と強く結びついていると感じております。今後は、その精神を後輩たちに伝え、勝敗にとらわれず努力を重ねる中で、礼節や感謝の心を育む指導を心がけてまいります。

また、教職員の一人として授業や学校行事を通じて、生徒一人ひとりの成長を支え、地域に信頼される学校づくりに努めてまいります。伝統を尊重しつつも、新しい時代の変化に柔軟に対応し、母校の更なる発展と地域社会への貢献に全力を尽くしてまいります。今後とも温かいご支援ご指導を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

◇次回もおたのしみに。

栃木県内では名前を知られてはいたかもしれませんが、全国的には無名の存在でした。厳しい練習環境に身を置いてはいたものの、特別な結果を残したわけではありません。ただ、その環境の中で、目標に向かって努力する大切さ、苦しい時を共に乗り越える仲間の尊さ、そして周囲への感謝の気持ちといった、人として大切な価値を学ばせてもらいました。



二十年以上前のことになりました。こうして後輩たちの人間育成に、サッカーを通して関わることができ、たいへん誇りに感じています。また大きな喜びとして感じています。

私の高校時代の思い出は、まさに「サッカー」に彩られています。

決して華やかな日々ばかりではなく、泥臭く、思い出したくないほどきつい練習もありましたが、振り返ると、その経験こそがその後の人生の土台になったと強く感じています。



J1カンパ大阪にてプレー

# 部活動の活躍

## ○運動部

### ◆ラグビー部

第七十三回関東高等学校

ラグビーフットボール大会 優勝

第十二回全国高等学校七人制

ラグビーフットボール大会 優勝

第一〇五回全国高等学校

ラグビーフットボール大会 ベスト八

### ◆ハンドボール

第三十九回関東高等学校選抜大会 第三位

第四十八回全国高等学校選抜大会 出場

第七十六回全国高等学校総合体育大会

(インターハイ) 出場

### ◆バレーボール

令和七年度全国高等学校総合体育大会

バレーボール競技大会 出場

第七十八回全日本バレーボール高等学校

選手権大会 出場

### ◆柔道

第四十七回全国高等学校選手権大会 出場

第七十四回全国高等学校総合体育大会

(インターハイ) 出場



### ◆なぎなた

第二十二回全国高等学校なぎなた選抜大会 出場

第六十四回全国高等学校総合体育大会

(インターハイ) 出場

第七十九回国民スポーツ大会 出場

## ○文化部

### ◆書道

第四十九回全国高等学校総合文化祭

香川大会 出品

第六十一回全国学生書道展(創玄書道会主催)

第五席 毎日新聞社賞

第五十回下野の書展高校選抜展

第一席 高校下野の書展賞

第五十九回高野山読書大会

第四席 金剛峯寺賞

第二十六回高校生国際美術展 奨励賞

第六十六回大東文化大学主催全国書道展

第七席 全国書美術振興会賞

第九位 大東文化学園理事賞

第七十二回全国書道展(大正大学主催)

第六席 天台座主賞・団体・団体奨励賞

第三十四回国際高校生選抜書展 秀作賞



### ◆吹奏楽

第六十七回栃木県吹奏楽コンクール

B部門 銅賞

第十八回県南地区アンサンブルコンテスト

木管三重奏 銀賞



# 昔 今 栃 國

年月と共に國栃の風景も変わったり変わらなかったり。変わらないものの一つに國學院祭があります。今回は体育祭の様子を見てみましょう。

令和7年

## 担任送り

3年生が仮装した担任をボードに乗せてゴールを目指します。



平成11年



## 仮装行列

夏休み前から作成に取りかかりました。

昭和56年

